

(限 内 部)

海軍公報(部内限)號外

海軍大臣官房

昭和十九年四月六日(木)

令 達

官房軍第三〇二號

左ノ魚雷艇八十六隻ヲ雜役船ニ編入シ其ノ船名、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和十九年三月十五日

海 軍 大 臣

船 名	船 種	所 屬	定 數 別	記 事
自第二一號雷艇 至第十七號雷艇	内 火 艇 (魚雷艇型)	海 軍 水 雷 學 校	臨 時 附 屬	自舊第二百一號魚雷艇 至舊第二百十六號魚雷艇
自第十八號雷艇 至第二十五號雷艇	同	横 須 賀 防 備 隊	同	自舊第二百十七號魚雷艇 至舊第二百二十四號魚雷艇
第二十六號雷艇	同		同	舊第二百三十號魚雷艇
第二十七號雷艇	同		同	舊第二百三十一號魚雷艇
第二十八號雷艇	同	海 軍 航 海 學 校	同	舊第二百三十四號魚雷艇
第二十九號雷艇	同		同	舊第二百二十五號魚雷艇

隊備防各 校學雷水軍海

海軍公報(部内限)號外

第三十號雷艇	第三十一號雷艇	第三十二號雷艇	自第三十三號至第三十五號雷艇	第三十六號雷艇	第三十七號雷艇	第三十八號雷艇	第三十九號雷艇	第四十號雷艇	自第四十一號至第四十六號雷艇	第四十七號雷艇	第四十八號雷艇	自第四十九號至第五十二號雷艇	第五十三號雷艇	第五十四號雷艇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
內 火 艇 (魚雷艇型)	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	海軍工機學校	小松島海軍航空隊 河和分遣隊	筑波海軍航空隊	神ノ池海軍航空隊	海軍潛水學校	佐伯防備隊	大島防備隊							
臨時附屬	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
舊第二百二十六號魚雷艇	舊第二百二十八號魚雷艇	舊第二百二十九號魚雷艇	自舊第二百三十五號至舊第二百三十七號魚雷艇	舊第二百二十七號魚雷艇	舊第二百三十八號魚雷艇	舊第二百三十九號魚雷艇	舊第三百三號魚雷艇	舊第三百六號魚雷艇	自舊第三百九號至舊第三百十四號魚雷艇	舊第三百二十號魚雷艇	舊第三百二十一號魚雷艇	自舊第三百二十三號至舊第三百二十六號魚雷艇	舊第三百二十七號魚雷艇	舊第三百二十八號魚雷艇
モルス備装ヲ裝兵有固 (型乙) 艇雷魚ハノモノ屬配ニ隊地基艦水潛吳														

1841

第五十五號雷艇	同	吳潛水艦基地隊	舊第三百三十一號魚雷艇
第五十六號雷艇	同		舊第三百三十四號魚雷艇
第五十七號雷艇	同		舊第三百三十五號魚雷艇
第五十八號雷艇	同		舊第三百三十七號魚雷艇
第五十九號雷艇	同		舊第三百三十八號魚雷艇
第六十號雷艇	同		舊第三百四十一號魚雷艇
第六十一號雷艇	同		舊第三百四十二號魚雷艇
第六十二號雷艇	同		舊第三百四十五號魚雷艇
第六十三號雷艇	同		舊第三百四十四號魚雷艇
第六十四號雷艇	同		舊第三百四十七號魚雷艇
第六十五號雷艇	同		舊第三百四十六號魚雷艇
第六十六號雷艇	同		舊第三百四十八號魚雷艇
第六十七號雷艇	同		舊第三百三十六號魚雷艇
第六十八號雷艇	同	舊第三百三十七號魚雷艇	
自第六十九號雷艇 至第七十四號雷艇	同	佐世保防備隊	自舊第三百四十九號魚雷艇 至舊第三百五十四號魚雷艇

海軍公報 (部内限) 號外

ストノ

1842

自第七十五號 至第七十九號	雷艇	内 火 艇 (魚雷艇型)	臨時附屬	自舊第四百二十一號 至舊第四百二十五號	魚雷艇
第八十號	雷艇	同	同	舊第四百五十六號	魚雷艇
第八十一號	雷艇	同	同	舊第四百七十四號	魚雷艇
第八十二號	雷艇	同	同	舊第四百七十五號	魚雷艇
自第八十三號 至第八十七號	雷艇	同	同	自舊第五百一號 至舊第五百五號	魚雷艇
舞鶴防備隊					

官房軍第三〇三號

雜役船ノ船名ヲ左ノ通變更ス

昭和十九年三月十五日

海軍大臣

第一號魚雷艇	第一號雷艇	内 火 艇 (魚雷艇型)	海軍水雷學校	臨時附屬	
舊船名	新船名	船種	所屬	定數別	記
事					

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

海軍大臣官房

昭和十九年四月十二日 (水)

○ 辭 令

○昭和十九年四月一日

(各通)

任海軍書記  
給三級俸

菊池 永助  
板橋 鶴之助

(各通)

任海軍書記  
給四級俸

矢 延 榮  
日高 覺太郎  
野上 一男  
堀之内 爲範

(各通)

水口 林作  
菅原 桂  
佐々木 凱三  
野中 治六  
加茂 正雄

任海軍書記  
給五級俸

三繩 千代吉  
齋藤 伊喜治

(各通)

任海軍書記  
給六級俸

高橋 利一  
齋藤 巖  
岩崎 孝治  
島田 孝朔  
山本 利雄  
齋藤 晃  
青木 辰三郎

(各通)

中林 久五郎  
荒谷 守夫  
菅原 康一  
小堀 三喜夫

海軍公報 (部内限) 號外

1844

任海軍書記  
給月俸七拾圓

田口哲男

(各通)

任海軍書記  
給七級俸

佐伯裕志  
鶴野源伍  
中田頼明  
荒谷正美  
山下四方治

任海軍書記兼海軍屬  
給七級俸

近田敬三

(各通)

任海軍書記  
給七級俸

清水正明  
和田四郎  
的場静夫

(各通)

伊関博司  
村上安雄  
上林長兵衛

任海軍書記  
給月俸六拾圓

陶山保  
永野宏  
龜本朝信

(各通)

任海軍書記  
給八級俸

龜山精二  
富樫美榮  
土赤耕道  
上野頼生  
藤野勇吉  
出口真太郎  
岡野喜八郎  
坪倉司郎

(各通)

任海軍助教  
給四級俸

奈良高等師範學校助教諭  
臺灣公立中等學校教諭

鈴木一郎  
池田武夫  
岩山稔之

1845

任海軍助教  
給六級俸

稻垣 孝殿

任海軍監獄看守長  
給四級俸

海軍監獄看守

寺田 雄治

任海軍技手  
給一級俸

岡嶋 胤一

(各通)

任海軍技手  
給二級俸

水嶋 隆三郎  
三刀屋常太郎

竹内 外之三郎  
倉迫 甚太郎  
高梨 元吉  
加百 廣吉  
君島 安次  
野崎 毅  
吉永 太市  
山田 安一

(各通)

任海軍技手  
給三級俸

長島 清一郎  
津守 安太郎  
山崎 武治  
瀬野 久俊  
山下 仲之助  
濱野 佐四郎  
松永 平七  
富林 勝藏  
濱本 守三  
大下 達治郎  
黒石 福市  
岡村 忠司  
石田 快三  
大室 唯市  
有馬 春喜  
濱田 謙三  
村中 滿作  
松岡 繁市  
瀬野 昇

(各通)

前田 富久治  
柴田 司  
毛利 国穂  
三富 好敏  
下岡 幸登  
戸田 彌三郎  
淺沼 義正  
安藤 正二  
新田 逸三  
宗兼 廣美  
藤本 喜代男  
石毛 勝藏  
前川 重良  
林 聰一  
大須賀 篤  
高田 仲藏  
荒本 隆次  
加藤 庸夫  
田中 末吉  
山本 清  
川元 麻美

任海軍技手  
給四級俸

長野縣技手

久保田 和義  
安倍 宗  
深見 城  
千石 正乃夫  
足立 正三  
佐藤 誠行  
青柳 玄三郎  
島村 萬吉  
森貞 俊三  
大島 秋男  
早川 金次  
中野 磯一  
天野 篤  
藤卷 一雄  
本多 末義  
八島 春人  
村井 保正  
宮川 文造  
遠藤 襄次

四



(各通)

任海軍技手  
給五級俸

通信技手

長岡重吉	新庄堅	祐川覺一郎	丸本榮之進	村岡壽正	平本正俊	田端四郎	田島萬壽男	池田繁樹	古川清治	中嶋進	向山光二	岡本一男子	竹下仲三郎	遠藤孝吉	田尻敏隆	原田幸一	鈴木道夫	齊藤義明
------	-----	-------	-------	------	------	------	-------	------	------	-----	------	-------	-------	------	------	------	------	------

(各通)

安井銳典	柴田昇	平石光雄	中野英若	藤井忠雄	得本一徳	石原淳平	柳井順三	熊田賢治	松木健三	祝嶺春一郎	村上利雄	松原長喜	本田理廣	永田富久夫	大槻保人	内田芳人	濱田正男	富永博	中本志郎	森井親房
------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	-------	------	------	------	-----	------	------

任海軍技手  
給六級俸

住田 勝  
鈴木 大次

(各通)

丸古 一  
夢賀 文雄

任海軍技手  
給月俸七拾圓

(各通)

岩崙 達司  
小島 綱貞  
植木 廣光  
武藤 忠

任海軍技手  
給七級俸

(各通)

高橋 勝夫  
竹井 清  
佐伯 達雄

任海軍技手  
給月俸六拾圓

(各通)

高橋 幸男  
小森 邦彦

任海軍技手  
給八級俸

藤岡 邦男  
井野 邦博

海軍監獄看守ヲ命ス  
月俸四拾五圓ヲ給ス

前中 留吉

(各通)

小林 俊雄  
北浦 進次  
中本 吉雄  
西川 信藏  
山名 繁治郎  
石幸 繁雄

海軍監獄看守ヲ命ス  
月俸四拾圓ヲ給ス

海軍屬 近田 敬三

海軍省軍需局勤務ヲ命ス

海軍書記 菊池 永助

第一海軍經理部附ヲ命ス

同 板橋 鶴之助

海軍工作學校附ヲ命ス

吳海軍工廠附ヲ命ス	同	矢延 榮
横須賀海軍工廠勤務ヲ命ス	同	日高 覺太郎
海軍技術研究所勤務ヲ命ス	同	野上 一男
第一海軍經理部附ヲ命ス	同	堀之内 爲範
海軍艦政本部勤務兼造船造兵監督書記ヲ命ス	同	水口 林作
海軍技術研究所勤務ヲ命ス	同	菅原 桂
光海軍工廠附ヲ命ス	同	佐々木 凱三
第一海軍經理部附ヲ命ス	同	野中 治六
(各通)	同	加茂 正雄
	同	三繩 千代吉
	同	齋藤 伊喜治
横須賀海軍工廠勤務ヲ命ス	同	高橋 利一
吳海軍施設部勤務ヲ命ス	同	齋藤 巖
(各通)	同	岩崎 孝治
	同	島田 孝朔
海軍艦政本部勤務ヲ命ス	同	山本 利雄
第一海軍航空廠附ヲ命ス	同	齋藤 晃
(各通)	同	青木 辰三郎
海軍艦政本部勤務ヲ命ス	同	中林 久五郎
吳海軍施設部勤務ヲ命ス	同	荒谷 守夫
海軍技術研究所勤務ヲ命ス	同	菅原 康一
大井海軍航空隊附ヲ命ス	同	小堀 三喜夫
(各通)	同	田口 哲男
	同	佐伯 祐志
	同	鶴野 源伍
吳海軍施設部勤務ヲ命ス	同	中田 頼明
	同	荒谷 正美

第二百二海軍經理部附ヲ命ス	海軍書記	山下四方治
第一海軍燃料廠附ヲ命ス	同	近田敬三
(各通)	同	清水正明
吳海軍施設部勤務ヲ命ス	同	和田四郎
第一海軍航空廠勤務ヲ命ス	同	的場靜夫
舞鶴海軍施設部勤務ヲ命ス	同	伊関博司
舞鶴海軍人事部附ヲ命ス	同	村上安雄
第二百二海軍經理部附ヲ命ス	同	上林長兵衛
海軍艦政本部附兼鎮海海軍經理部附ヲ命ス	同	陶山保
吳海軍施設部勤務ヲ命ス	同	永野宏
	同	亀本朝信
海軍艦政本部勤務ヲ命ス	同	龜山精二
海軍艦政本部勤務兼造船兵監督書記ヲ命ス	同	富樫美榮
(各通)	同	土赤耕道
舞鶴海軍施設部勤務ヲ命ス	同	上野頼生
舞鶴海軍軍需部附ヲ命ス	同	藤野勇吉
臺北在勤海軍武官附ヲ命ス	同	出口眞太郎
三重海軍航空隊附ヲ命ス	同	岡野喜八郎
鹿兒島海軍航空隊附ヲ命ス	同	坪倉司郎
第六海軍燃料廠附ヲ命ス	海軍助教	鈴木一郎
豊川海軍工廠附ヲ命ス	同	池田武夫
	同	岩山稔之
	同	稻垣孝嚴

海軍監獄看守長	寺田 雄治
第百二海軍刑務所附ヲ命ス	
海軍技手	岡嶋 胤一
川棚海軍工廠附ヲ命ス	
	水嶋 隆三郎
舞鶴海軍工廠勤務ヲ命ス	同
	三刀屋常太郎
吳海軍工廠附ヲ命ス	同
	竹内外之三郎
海軍技術研究所附ヲ命ス	同
	倉迫 甚太郎
吳海軍工廠勤務ヲ命ス	同
	高梨 元吉
横須賀海軍工廠勤務ヲ命ス	同
	加百 廣吉
吳海軍工廠勤務ヲ命ス	同
	君島 安次
横須賀海軍工廠勤務ヲ命ス	同
	野崎 毅
海軍技術研究所附ヲ命ス	
舞鶴海軍工廠勤務ヲ命ス	同
	青永 太市
佐世保海軍工廠附ヲ命ス	同
	山田 安一
鎮海海軍工作部附ヲ命ス	同
	長島 清一郎
海軍艦政本部勤務兼造兵監督助手海軍航空本部造兵監督助手ヲ命ス	同
	津守 安太郎
海軍艦政本部勤務兼造兵監督助手ヲ命ス	同
	山崎 武治
舞鶴海軍工廠勤務ヲ命ス	同
	瀬野 久俊
光海軍工廠勤務ヲ命ス	同
	山下 伸之助
海軍技術研究所勤務ヲ命ス	同
	濱野 佐四郎
海軍艦政本部勤務兼造船監督助手ヲ命ス	同
	松永 平七
第三十海軍工作部附ヲ命ス	同
	富林 勝藏

海軍公報 (部内限) 號外

九

1852

(各通)	海軍技手	濱木 守三
同	大下 達治郎	
吳海軍工廠勤務ヲ命ス	黒石 福市	
海軍艦政本部勤務兼造船監督助手ヲ命ス	岡村 忠司	
(各通)	石田 快三	
同	大室 唯市	
吳海軍工廠附ヲ命ス	有馬 春喜	
(各通)	濱田 謙三	
同	村中 満作	
光海軍工廠附ヲ命ス		
海軍艦政本部勤務兼造兵監督助手海軍航空本部造兵監督助手ヲ命ス	松岡 繁市	
海軍艦政本部勤務兼造船監督助手ヲ命ス	瀬野 昇	
舞鶴海軍工廠勤務ヲ命ス	前田 富久治	
(各通)	柴田 司	
同		
舞鶴海軍工廠附ヲ命ス		
第六十一海軍航空工廠附ヲ命ス	毛利 国穂	
同	三富 好敏	
大湊海軍工作部附ヲ命ス	下岡 幸登	
同	戸田 彌三郎	
海軍艦政本部勤務ヲ命ス	淺沼 義正	
舞鶴海軍工廠附ヲ命ス	安藤 正二	
第二海軍火藥廠勤務ヲ命ス	同	
海軍航空技術支廠勤務ヲ命ス	新田 逸三	
(各通)	宗兼 廣美	
同	藤本 喜代男	
高座海軍工廠附ヲ命ス	同	
吳海軍工廠附ヲ命ス	石毛 勝藏	
海軍技術研究所勤務ヲ命ス	前川 重良	
光海軍工廠附ヲ命ス		

(各通)	舞鶴海軍工廠勤務ヲ命ス	同	林 聰 一
	高座海軍工廠附ヲ命ス	同	大須賀 篤
	吳海軍工廠勤務ヲ命ス	同	高田 仲藏
	佐世保海軍工廠勤務ヲ命ス	同	荒本 隆次
	吳海軍工廠附ヲ命ス	同	加藤 庸夫
	吳海軍工廠勤務ヲ命ス	同	田中 末吉
	吳海軍工廠勤務ヲ命ス	同	山本 清
	吳海軍工廠勤務ヲ命ス	同	川元 麻美
	海軍航空技術廠支廠勤務ヲ命ス	同	久保田 和義
	第三海軍火藥廠附ヲ命ス	同	安 倍 宗
(各通)	大湊海軍軍需部附ヲ命ス	同	深見 城
		同	千石 正乃夫
	光海軍工廠附ヲ命ス	同	足立 正三
	海軍艦政本部勤務兼造兵監督助手海軍航空本部造兵監督助手ヲ命ス	同	佐藤 誠行
(各通)	海軍技術研究所勤務ヲ命ス	同	青柳 亥三郎
	吳海軍工廠勤務ヲ命ス	同	島村 萬吉
	第二海軍火藥廠勤務ヲ命ス	同	森貞 俊三
	高座海軍工廠附ヲ命ス	同	大島 秋男
	佐世保海軍工廠勤務ヲ命ス	同	早川 金次
	舞鶴海軍工廠附ヲ命ス	同	中野 磯一
(各通)		同	天野 篤
		同	藤卷 一雄
		同	本多 末義
		同	八島 春人

海軍技術研究所勤務ヲ命ス	海軍技術	村井保正
第二海軍火藥廠附ヲ命ス	同	宮川文造
吳海軍工廠勤務ヲ命ス	同	遠藤襄次
海軍艦政本部勤務兼造兵監督助手海軍航空本部造兵監督助手ヲ命ス	同	齊藤義明
海軍技術研究所勤務ヲ命ス	同	鈴木道夫
光海軍工廠附ヲ命ス	同	原田幸一
吳海軍工廠勤務ヲ命ス	同	田尻敏隆
(各通)	同	遠藤孝吉
海軍技術研究所勤務ヲ命ス	同	竹下伸三郎
舞鶴海軍工廠附ヲ命ス	同	岡本一男子
(各通)	同	向山光二
第三海軍火藥廠附ヲ命ス	同	中嶋進
横須賀海軍工廠勤務ヲ命ス	同	古川清治
吳海軍工廠附ヲ命ス	同	池田繁樹
海軍艦政本部勤務兼造兵監督助手海軍航空本部造兵監督助手ヲ命ス	同	田島萬壽男
海軍技術研究所勤務ヲ命ス	同	田端四郎
(各通)	同	平本正俊
吳海軍工廠勤務ヲ命ス	同	村岡壽正
吳海軍施設部勤務ヲ命ス	同	丸本榮之進
大湊海軍軍需部附ヲ命ス	同	祐川覺一郎
海軍技術研究所勤務ヲ命ス	同	新庄堅



大湊海軍施設部勤務ヲ命ス	同	長岡重吉
吳海軍工廠附ヲ命ス	同	森井親房
海軍艦政本部勤務兼造兵監督助手海軍航空本部造兵監督助手ヲ命ス	同	中本志郎
(各通)	同	富永博
(各通)	同	濱田正男
(各通)	同	内田芳人
吳海軍工廠勤務ヲ命ス	同	大槻保
(各通)	同	永田富久夫
(各通)	同	本田理廣
第三海軍火藥廠勤務ヲ命ス	同	松原長喜
第三海軍火藥廠附ヲ命ス	同	村上利雄
海軍艦政本部勤務兼造兵監督助手海軍航空本部造兵監督助手ヲ命ス	同	
海軍技術研究所勤務ヲ命ス	同	祝嶺春一郎
第二海軍火藥廠附ヲ命ス	同	松本健三
(各通)	同	熊田賢治
(各通)	同	柳井順三
吳海軍工廠勤務ヲ命ス	同	石原淳平
海軍技術研究所勤務ヲ命ス	同	得本一徳
海軍艦政本部勤務兼造兵監督助手海軍航空本部造兵監督助手ヲ命ス	同	
(各通)	同	藤井忠雄
第十一海軍航空廠勤務ヲ命ス	同	中野英若
第二海軍火藥廠附ヲ命ス	同	平石光雄
(各通)	同	柴田昇
海軍技術研究所勤務ヲ命ス	同	安井鏡典

海軍公報 (部内限) 號外

吳海軍施設部勤務ヲ命ス	海軍技手	住田勝
第二海軍火藥廠勤務ヲ命ス	同	鈴木大次
吳海軍施設部勤務ヲ命ス	同	丸古一
豊川海軍工廠勤務ヲ命ス	同	茅賀文雄
吳海軍施設部勤務ヲ命ス	同	岩畷達司
水路部附ヲ命ス	同	小島綱貞
第三十六共同丸乗組ヲ命ス	同	植木廣光
第百一海軍施設部附ヲ命ス	同	武藤忠
水路部附ヲ命ス	同	高橋勝夫
(各通)	同	竹井清
	同	佐伯達雄
	同	高橋幸男
吳海軍施設部勤務ヲ命ス	海軍監獄看守	前中留吉
第百二海軍刑務所附ヲ命ス	同	小林俊雄
第二海軍刑務所附ヲ命ス	同	北浦進次
海南海軍刑務所附ヲ命ス	同	中本吉雄
第百二海軍刑務所附ヲ命ス	同	西川信藏
第二海軍刑務所附ヲ命ス	同	山名繁治郎
(各通)	同	石幸繁雄
海南海軍刑務所附ヲ命ス(以上ハハ海軍省)		

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十九年四月十二日(水)  
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第四四一號

昭和十八年度新造計畫雜役船ノ公稱番號、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和十九年四月十日

海 軍 大 臣

公稱番號	船 種	所 屬	定數別	記 事			
				製造訓令番號	計畫番號		
自第三八五號 至第三三六號	カ ツ 夕 夕 一 (九 十二 隻)	海軍兵學校	定數補充	昭和十八年官房艦機密 第二八〇三號(吳)	自八一〇九 至八一〇三	昭和十九年 十月末日	竣工豫定期日 校大原 備考
自第三三七號 至第三三三號	同 (六 隻)	海軍經理學校	同	昭和十八年官房艦機密 第二八〇二號(橫須賀)	自八一〇九 至八一〇三	同 三月末日	
自第三三三號 至第三三〇號	同 (八 隻)	橫須賀海軍砲術學 校	同		自八一〇二 至八一〇〇	昭和二十年 三月末日	豫備 生徒用
自第三二八號 至第三二七號	同 (同 二十四隻)		海軍潛水學校		同	自八一〇〇 至八一〇九	昭和十九年 六月末日

海軍公報 (部内限) 號外

1858

自第三三〇二號 至第三三〇一號	同	(同十隻)	海軍工機學校分校	同	昭和三十八年官房艦機密	自三三〇二 至三三〇一	三 月 末 日 年	新 兵 教 育 用
自第三三〇三號 至第三三〇二號	同	(同十隻)	吳第三海兵團 (假稱)	同	昭和三十八年官房艦機密 (吳)	自三三〇三 至三三〇二	九 月 末 日 年	
自第三三〇四號 至第三三〇三號	同	(同十隻)	佐世保第三海兵團 (假稱)	同	昭和三十八年官房艦機密 (佐世保)	自三三〇四 至三三〇三	九 月 末 日 年	選 修 生 用
自第三三〇五號 至第三三〇四號	同	(同十隻)	舞鶴第二海兵團 (假稱)	同	昭和三十八年官房艦機密 (舞鶴)	自三三〇五 至三三〇四	三 月 末 日 年	
自第三三〇六號 至第三三〇五號	同	(同十隻)	海軍准士官學校 (假稱)	同	昭和三十八年官房艦機密 (吳)	自三三〇六 至三三〇五	十 月 末 日 年	選 修 生 用
自第三三〇七號 至第三三〇六號	同	(同十隻)	佐世保海軍港務部 (青島方面特別根據地隊司令部供用)	同	昭和三十八年官房艦機密	自三三〇七 至三三〇六	昭 和 十 九 年 末 日 年	
自第三三〇八號 至第三三〇七號	同	(同十隻)	防府海軍通信學校	定數補充	第二八〇三號(吳)	自三三〇八 至三三〇七	昭 和 十 九 年 末 日 年	

自第七〇三號 至第七〇九號	自第七〇五號 至第七〇八號	自第七〇四號 至第七〇〇號	自第七〇七號 至第七〇〇號	自第七〇九號 至第七〇六號	自第七〇八號 至第七〇五號	自第七〇六號 至第七〇三號	自第七〇五號 至第七〇二號	自第七〇四號 至第七〇一號	自第七〇三號 至第七〇〇號	自第七〇二號 至第七〇〇號	自第七〇一號 至第七〇〇號	自第七〇〇號 至第七〇〇號
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
(二十五隻)	(同)	(同)	(四隻)	(十二隻)	(同)	(四隻)	(同)	(五隻)	(十八隻)	(馬)	(十隻)	(同)
海軍工作學校	海軍對潛學校	海軍航海學校	防府海軍通信學校	海軍潛水學校	橫須賀海軍砲術學校	海軍經理學校	海軍兵學校	海軍兵學校	海軍兵學校	佐世保海軍港務部 (上海方面特別俱備) (地隊司令部供用)	佐世保海軍港務部 (上海方面特別俱備) (地隊司令部供用)	佐世保海軍港務部 (上海方面特別俱備) (地隊司令部供用)
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
昭和十八年官房艦機密 第二八〇二號(橫須賀)	昭和十八年官房艦機密 第二八〇三號(吳)	昭和十八年官房艦機密 第二八〇四號(吳)	昭和十八年官房艦機密 第二八〇五號(吳)	昭和十八年官房艦機密 第二八〇六號(吳)	昭和十八年官房艦機密 第二八〇七號(吳)	昭和十八年官房艦機密 第二八〇八號(吳)	昭和十八年官房艦機密 第二八〇九號(吳)	昭和十八年官房艦機密 第二八一〇號(吳)	昭和十八年官房艦機密 第二八一〇號(吳)	昭和十八年官房艦機密 第二八一〇號(吳)	昭和十八年官房艦機密 第二八一〇號(吳)	昭和十八年官房艦機密 第二八一〇號(吳)
自一八二二六 至一八二二八	自一八二二六 至一八二二八	自一八二二六 至一八二二八	自一八二二六 至一八二二八	自一八二二六 至一八二二八	自一八二二六 至一八二二八	自一八二二六 至一八二二八	自一八二二六 至一八二二八	自一八二二六 至一八二二八	自一八二二六 至一八二二八	自一八二二六 至一八二二八	自一八二二六 至一八二二八	自一八二二六 至一八二二八
三月末 日年	三月末 日年	三月末 日年	三月末 日年	三月末 日年	三月末 日年	三月末 日年	三月末 日年	三月末 日年	三月末 日年	三月末 日年	三月末 日年	三月末 日年
用(潜水)	用(潜水)	用(潜水)	用(潜水)	用(潜水)	用(潜水)	用(潜水)	用(潜水)	用(潜水)	用(潜水)	用(潜水)	用(潜水)	用(潜水)

1860

海軍公報 (部内限) 號外

自第七〇三號 至第七〇五號	傳 馬船 (二十二隻) (二十五隻)				自一〇三〇 至一〇三二	昭和二十年 三月末日	新兵 教育
自第七〇五號 至第七〇七號	(八十隻)	吳第三海兵團 (假稱)	定數補充	昭和十八年官房艦機密 第二八〇三號(吳)	自一〇三三 至一〇三五	昭和十九年 九月末日	新兵 教育
自第七〇七號 至第七〇九號	(同)				自一〇三六 至一〇三八	同 十月末日	
自第七〇九號 至第七二八號	(同)	佐世保第三海兵團 (假稱)	同	昭和十八年官房艦機密 第二八〇四號(佐世保)	自一〇三九 至一〇四一	同 三月末日	
自第七二八號 至第七二九號	(同)				自一〇四二 至一〇四四	昭和二十年 三月末日	
自第七二九號 至第七三〇號	(同)				自一〇四五 至一〇四七	昭和十九年 九月末日	
自第七三〇號 至第七三五號	(同)	舞鶴第二海兵團 (假稱)	同	昭和十八年官房艦機密 第二八〇五號(舞鶴)	自一〇四八 至一〇五〇	昭和二十年 三月末日	
自第七三五號 至第七三六號	(同)				自一〇五一 至一〇五三	昭和十九年 十月末日	選修 學生
自第七三六號 至第七三八號	(同)	海軍准士官學校 (假稱)	同	昭和十八年官房艦機密 第二八〇三號(吳)	自一〇五四 至一〇五六	昭和十八年 八月末日	新兵 教育
自第七三八號 至第七八四號	(同)	佐世保海軍港務部 (青島方面特別根據地隊司令部供用)	同	昭和十八年官房艦機密 第二八〇四號(佐世保)	自一〇五七 至一〇五九	昭和十八年 八月末日	新兵 教育

○正誤

二月八日公報(部内限) 號外官房第二五二號公稱第一六四七號ノ項中「三菱長崎造船所」ハ「三菱下關造船所」ノ誤

海軍公報 (部内限) 第四千六百七十二號

昭和十九年四月二十二日  
海軍大臣官房

○令達

官房人機密第一〇三二號

本年四月十五日現在水上機母艦神威ノ職員タル者ハ特ニ發令モラルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ特務艦神威ノ各相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和十九年四月二十一日

海軍大臣

官房經機密第四五四號

海上護衛總司令部所屬特設護衛船團司令部及其ノ附屬艦船部隊ノ支拂ニ屬スル經費ハ之ヲ艦隊經費支辨トス

本令ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

昭和十九年四月二十一日  
海軍大臣

○通牒

軍務一第六二號

昭和十九年四月十四日

官房備機密第四三號ノ一五

昭和十九年四月二十一日

海軍省副官

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

昭和十八年官房備機密第一四五號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附録所在地區別符表(其ノ二)中ニ「ネグロス島テ四八」「バコロドテ四九」ヲ加フ

同(其ノ四)中ニ「サルミセ六四」ヲ加フ

附録部隊區別符表(其ノ一)中ニ「第四防空隊」

「四壹八」「第五一船防防空隊」

「四壹九」

「第五〇二防空隊」

「四四〇」ヲ加フ

別表海軍軍用郵便所及同派出所一覽表中第三十六海軍軍用郵便所ノ項「第二派出所」

「ブナカナウ」ヲ削ル

海軍公報 (部内限) 第四千六百七十二號

昭和十九年四月二十二日

五八七

1862

各廳長殿

海軍省軍務局長

機密書類取扱ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ屢次注意喚起セラレアルニモ拘ラズ最近部内軍人軍屬ノ機密書類ニ關スル取扱粗漏ニ基ク事件頻發シ特ニ旅行(外出)中車内、驛等ニ於テ盜難又ハ遺棄等ノ事件ヲ惹起シ甚ダシキニ至リテハ機密書類ヲ所持セルマヲ酌罰之ヲ亡失セルモノアル等機密保持ニ對スル觀念ヲ疑ハシムルモノアリ眞ニ遺憾ニ堪ヘザル次第ニテ任務上機密書類ヲ携行スル場合ハ寸刻モ身邊ヨリ之ヲ離サズ用濟後ハ速ニ之ヲ格納(返納)スルコトハ亡失防止ノ根源ト認メラルルニ付嚴重ニ勵行セシメララルル等此ノ際一段ト之ガ取扱ニ關シ慎重ヲ期シ殊ニ旅行(外出)中ニ於ケル此ノ種不祥事件ノ絶無ヲ期スル様可然取計相成度

軍務一機密第三五六號

昭和十九年四月二十日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

海軍電波本部開設ニ關スル件申進

戰局ニ鑑ミ電波關係兵器ノ躍進的進步ヲ圖ル爲今回海軍電波本部開設セラレ電波關係兵器(電波兵器、無線通信兵器、有線通信兵器)及水測兵器ニ關スル研究實驗試作事務ヲ一元的ニ掌理スルコト相成リタル處創設ノ際諸般ノ整備不十分ニシテ業務遂行上困難尠カラザルベク克ク所期ノ目的達成ノ爲ニハ關係各方面ノ協力ニ俟タザルベカラザルニ付テハ之ガ支援ニ關シ特ニ配慮アリ度

追テ同本部ノ海軍艦政本部及海軍航空本部ヨリノ事務繼承ハ現業務ヲ阻害セザル如ク逐次移行セラルル豫定ニ有之候

契九機密第五二一號

昭和十九年四月十七日

海軍省經理局長

各鎮守府參謀長殿  
大湊、大阪警備府參謀長殿

海軍各廳勞務者用價格特配煙草取扱要領

中改正ニ關スル件申進

昭和十八年六月十日契九機密第二八六號海軍各廳勞務者用價格特配煙草取扱要領中左記ノ通改正致候條可然取計相成度



記

第一項(一)中「鑛員」ノ下ニ「坑内常勤職員」ヲ加フ  
 同(一)ノ次行ニ「尙工場事業場ノ現場職員、運轉手、  
 守衛又ハ看手ニシテ勞務ノ態様ガ勞務者ニ準ズベキモ  
 ノニ對シテハ割當數量ノ範圍内ニ於テ配給スルコトヲ  
 得」ヲ加フ  
 第二項(二)中「十錢」ヲ「十五錢」ニ改ム  
 第三項(一)中「割當テ」ノ下ニ「(割當ハ原則トシテ年三  
 回トス)」ヲ加フ  
 別紙「昭和 年 月勞務者用價格特配煙草配給實績  
 調査表」中備考(二)ノ次行ニ「(三) 勤勞報國隊等ニシテ  
 同一炭鑛又ハ鑛山ニ引續キ一月以上就勞スル者ハ常備  
 者ト看做シ勞務者數ニ計上シ其ノ員數ヲ摘要欄ニ記載  
 スルコト」ヲ加フ

經給第六二號

昭和十九年四月二十一日

海軍省 經理局長

關係各廳長殿

臨時非常作業ニ從事シタル工具ニ非常食  
 支給ニ關スル件中改正ノ件通牒

昭和十八年經給第一八八號中左ノ通改正ス

記

本文中「又ハ天災」ヲ「若ハ天災」ニ改メ「食事ノ準  
 備困難ナルトキ」ノ下ニ「又ハ定時間外服業四時間以  
 上ノ夜業ノ場合若ハ夏期(自七月十一日)重勞火熱業務  
 (造船修打員、一〇〇噸以上ノプレス及三噸以  
 上ノ鐵槌ヲ使用スル大物鍛練ニ從事スル鍛工具)ニ就キ保健上必  
 要アリト認ムル場合」ヲ加フ  
 第一號品種、數量中「砂糖二〇瓦以内」ノ下ニ「(保健  
 要ナル場合ニハ)」ヲ加フ  
 糯米三〇瓦以内」ヲ加フ  
 (參照) 昭和十八年十二月十八日海軍公報(部内限)

○ 辭 令

○昭和十八年四月二十八日

- 服部 靖男
- 横山 榮治
- 大川 福太郎
- 三浦 亨
- 西田 義季
- 鎌田 金康
- 久保山 昌男
- 中川原 勉

(各通)

海軍公報(部内限)第四百六百七十二號

昭和十九年四月二十二日

五八九

任海軍書記

給月俸七拾圓

○昭和十八年五月四日

任海軍書記

給月俸七拾圓

○昭和十九年三月八日

任海軍技手

給六級俸

(各通)

任海軍技手

給月俸七拾圓

任海軍技手

給七級俸

石野 孟

鈴木 義重

田中 和雄

永治 了

川口 幹次

廣島縣技手 平田 芳夫

京都府技手 仁張 禮一

同 小石原 一正

富山縣技手 澤田 一夫

大分縣技手 内田 清入

任海軍技手

給八級俸

○昭和十九年四月一日

任海軍技手

給四級俸

(各通)

任海軍技手

給月俸七拾圓

山梨縣技手 保坂 英夫

藤井 淺二郎

宮城縣技手 濱田 一郎

鹿兒島縣技手 加治 佐進

任海軍技手

給月俸六拾圓

(各通)

任海軍技手

給八級俸

任海軍技手

給八級俸

高柳 清雄

小柳 徹

小松 惇

高橋三四郎

任海軍技手  
給九級俸

兩角英一

任海軍技手  
給十級俸

○昭和十九年四月二十日

(各通)

氣象技手 伊藤 勝榮  
三重縣技手 森脇 武文

任海軍技手  
給五級俸

氣象技手 木村 幸夫

任海軍技手  
給六級俸

(各通)

工業試驗所技手 歌野 實  
臺灣總督府交通局技手 池田 港

任海軍技手  
給七級俸

岡澤 久夫

任海軍技手  
給八級俸

佐藤 四郎

徵用中年額貳千拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス  
(増訂海軍省)

海軍技手 伊藤 吉郎

依願免本官(増訂海軍省)

戸田 光雄

徵用中年額千六百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(増訂同)

海軍技手 平田 芳夫

(各通)

同 仁張 禮一  
同 小石原 一正  
同 澤田 一男  
同 内田 清人

第五海軍建設部附ヲ命ス(増訂同)

千六百五拾圓 斯波 悌一郎

(各通)

千四百七拾圓 前澤 滋  
千四百七拾圓 池田 康一郎  
千四百七拾圓 渡邊 正住

徵用中年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上同)

海軍公報(部内限)第四千六百七十二號 昭和十九年四月二十二日

五九一

1866

海軍技手	高柳 清雄	水路部附兼第四氣象隊附海軍技手	竹内 貞直
同	藤井 茂二郎	同	齋藤 勇作
同	保坂 英夫	同	藤浪 貞吉
同	濱田 二郎	第四氣象隊附ヲ命ス(以上同)	
同	加治佐 進	第四海軍工作部附海軍書記	高橋 啓次
同	一柳 徹	第三十海軍工作部附ヲ命ス(同)	高柳 儀八
同	小松 惇	海軍少將	
同	高橋 三四郎	海軍生徒採用試験常置委員ヲ命ス	森脇 武文
同	兩角 英一	マカツサル研究所附ヲ命ス	歌野 實
第五海軍建設部附ヲ命ス(同)		南西方面海軍民政府附ヲ命ス	池田 港
水路部附海軍書記	平澤 七之助	同	岡澤 久夫
(各通)	同	マカツサル研究所附ヲ命ス	伊藤 勝榮
海軍氣象部附ヲ命ス	青野 哲夫	鹿屋海軍航空隊附ヲ命ス	同
水路部附兼海軍氣象部附海軍總修書記	高久 景一	同	木村 幸夫
海軍氣象部附兼水路部附ヲ命ス(以上同)		宮崎海軍航空隊附ヲ命ス	
水路部附海軍技手	小川 敏一		
水路部附兼海軍氣象部附第四氣象隊附海軍技手	星 三郎		
海軍氣象部附兼第四氣象隊附第八氣象隊附ヲ命ス			
水路部附兼第十一航空隊司令部附第八氣象隊附海軍技手	村田 新吉		
第十一航空隊司令部附第八氣象隊附ヲ命ス			

乘檣林海軍運輸部附ヲ命ス	海南海軍軍需部附海軍書記	前川 清
(各通)	同	後藤 廓樂
海軍航空本部造兵監督助手ヲ命ス	海軍航空本部勤務兼造兵監督助手海軍技手	奥村 茂
海軍航空本部勤務ヲ命ス	海軍航空本部造兵監督助手海軍技手	前田 春雄
(各通)	海軍技術研究所勤務海軍書記	村田 準治
海軍電波本部附ヲ命ス	同	林 貞一
海軍艦政本部勤務海軍技手		福原 十朗
相模海軍工廠附ヲ命ス		田川 實
第二〇四設營隊附海軍技手		杉山 龍作
横須賀海軍施設部勤務ヲ命ス		高野 惠市郎
海軍艦政本部勤務ヲ命ス	第百一海軍工作部附海軍技手	手島 富正
海軍艦政本部勤務海軍技手		
第百一海軍工作部附ヲ命ス		

○本日普通公報發行セズ

吳海軍工廠附ヲ命ス(以上同)

第百一海軍工作部附海軍技手 福原 武夫

海軍公報(部内限)第四千六百七十二號 昭和十九年四月二十二日

五九三

1868

(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限) 第四千六百七十三號

昭和十九年四月二十四日(月)

海軍大臣官房

## ○令 達

官房第四七六號  
龜家繁三郎氏ヨリ寄贈ノ内火傳馬船一隻ヲ雜役船ニ編入シ其ノ船名、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和十九年四月二十一日

海軍大臣

報 第九六號 (龜家繁三郎)	船名	船種	所屬	定數	寄贈者
	内火傳馬船	第二美保海軍航空隊	臨時附屬	一	鳥取縣米子市法勝寺拾善地 龜家繁三郎

別表中

日	當	日	當
千島諸島、小笠原諸島、新南群島	一〇〇〇	千島諸島、小笠原諸島、新南群島	一〇〇〇
其ノ他ノ戦地	一五〇〇	其ノ他ノ戦地	一五〇〇
	八〇〇		八〇〇
	七〇〇		七〇〇
	六〇〇		六〇〇
	五〇〇		五〇〇
	三〇〇		三〇〇
	二〇〇		二〇〇
	七五〇		七五〇
	六〇〇		六〇〇
	四五〇		四五〇
	四〇〇		四〇〇
	三〇〇		三〇〇

ニ改ム

ヲ

官房第三九二號

昭和十九年官房第八八號中左ノ通改正ス

昭和十九年四月二十二日

海軍大臣

第一條中「南島島」ヲ「千島諸島、小笠原諸島」ニ改ム

第十九條中「千島諸島及小笠原諸島」、「千島諸島、小笠原諸島」及「千島諸島若ハ小笠原諸島」ヲ夫々「樺太」ニ改ム

海軍公報(部内限) 第四千六百七十三號

昭和十九年四月二十四日

五九五

1869

附則

本令ハ昭和十九年五月一日ヨリ之ヲ施行ス  
昭和十八年官房經機密第四九三號ハ昭和十九年四月三  
十日限り之ヲ廢止ス

(參照) 昭和十九年官房經第八八號

(海軍機密會計法規則 集一三〇八七〇頁)  
昭和十八年官房經機密第四九三號(同 一二七頁)

官房艦第一九九號

橫須賀海軍工廠父島分工場ニ於ケル通常物品及工事費  
ノ整理ニ關シテハ昭和十七年官房第五八一三號ノ規定  
ヲ準用ス

昭昭十九年四月二十二日

海 軍 大 臣

(參照) 官房第五八一三號ハ工作艦(特設工作艦ヲ含ム)、特設海軍  
工作部、特設特別工作部、警備府附屬ノ修理工場、艦船又  
ハ兵器ノ修理ヲ爲ス特設部隊等ニ於テ工事ニ要スル契約、  
通常物品及工事ノ整理ニ關スル條件ナリ(昭和十七年海軍公  
報(部内限)第四二〇七號)

官房艦機密第二六八七號

大東亞戰爭中兵器造修規則中左ノ事項ニ付テハ同規則  
ノ規定ニ拘ハラズ左ノ各號ニ依ル

昭和十九年四月二十二日

海 軍 大 臣

- 一 第十九條兵器裝備工事完成後關係各部ニ提出(送付)スベキ書類第二號表中砲身及砲架傾收發射試驗成績ハ之ヲ提出(送付)スルヲ要セズ
- 二 第三百三十七條供用砲身ノ定期検査中精密腑中検査ヲ施行スベキ時機ヲ左ノ通トス  
十二糎七砲以下(五十口徑十二糎七砲、九八式十糎高角砲、九八式八糎高角砲ヲ除ク)及短二十糎砲ニ在リテハ砲齡五〇〇發迄ハ前回精密腑中検査後ノ總發射彈數(常裝藥換算)二五〇發ニ達シタル時機
- 三 第三百三十七條砲塔砲ノ輓輪盤傾斜角度検査及腑軸平行検査施行時期「定期入渠ノトキ」ヲ「特ニ必要ト認ムルトキ」トス
- 四 第三百三十七條方位盤射擊裝置類、砲側照準器検査時期ヲ「就役入渠、其ノ他必要ト認ムルトキ」トス
- 五 第三百三十八條表備考第五號中「(計畫腑徑ニ認許量ヲ加ヘタル外徑ヲ有スル長サ四口徑ノ円筒)」ヲ「(計畫腑徑ト彈丸彈肩部稱呼寸法トノ平均寸法ノ外徑ヲ有スル長サ四口徑ノ円筒)」トス

官房備機密第六六號

四月二十五日靖國神社臨時大祭日ニハ工具ハ一般休業  
トシ當日ハ戰時海軍工具規則第四十八條第一號所定ノ  
公暇日ニ準ジ取扱フモノトス  
前項ノ規定ハ職員ニ之ヲ準用ス

昭和十九年四月二十四日

海軍大臣

○通牒

官房軍第四九一號

昭和十九年四月二十四日

海軍省副官

各廳長 殿

靖國神社臨時大祭休暇ノ件通牒

靖國神社臨時大祭ニ付本月二十五日諸官員並陸海軍軍  
隊、諸生徒ニ休暇ヲ賜フ旨仰出サレ候

○辭令

海軍艦政本部附海軍書記 大木 史郎

(各通)

海軍艦政本部附海軍技手

平澤 忠一

同

同

山西 安弘

海軍電波本部勤務ヲ命ス(以上同)

橋本 章三

(各通)

海軍少將

小川 貫麿

同

同

高木 惣吉

高等軍法會議判士ヲ命ス

東京軍法會議判士ヲ命ス

明石工作部附海軍技手

水町 虎作

佐世保海軍工廠勤務ヲ命ス

同

上粕 利治

吳海軍工廠勤務ヲ命ス(以上同)

(各通)

南洋廳屬

吉本 泰

同

佐々木 哲二

海軍省軍需局事務ヲ囑託ス(海軍省軍需局)

海務局事務官補 池田 長二

大阪監督官事務所大阪商船部ニ要スル經費支拂ノ爲  
臨時資金前渡官吏ヲ命ス(前支官 海軍省經理局  
長)

○雜款

海軍公報(部内限) 第四千六百七十三號

昭和十九年四月二十四日

五九七



○司令驅逐艦變更  
第十驅逐隊司令ハ三月二十五日司令驅逐艦ヲ風雲ニ變更セリ

○試験問題發送

第三回普通科特技章 運用術 氣象術 附與銓衡試驗問題  
右四月十五日左記ノ通發送濟、未着又ハ別ニ必要ノ向ハ海軍航海學校ニ至急通知相成度

記

- 一 單獨試驗豫定ノ各部ニハ直送
- 二 聯合試驗用ノモノハ各海軍人事務宛送付
- 三 聯合試驗參加豫定ノ艦船ユシテ行動豫定變更ノ爲聯合試驗參加不能ノ向ニ對スル分トシテ單獨試驗用若干部各海軍人事務宛送付シ置ケリ

(海軍航海學校)

○開廳

山形地方海軍人事務ハ四月一日山形市香澄町木ノ實小路ニ開廳事務ヲ開始セリ  
電話山形 一五二八番

第三十一海軍航空廠美保分工場ハ四月一日鳥取縣西伯郡中濱村字新屋ニ開廳セリ

○旅行順路

當廠ヘノ旅行者ハ垂水港經由ニ由ラル、向多キ現狀ナル處燃料節約ノ見地ヨリ自今左記ニ依ラレ度

記

- 一 鹿兒島港(九州汽船乘船) ↓ 鹿屋港(舊古江港) 着↓當廠(自動車約二十分)
- 二 日豊線↓岩川↓志布志↓鹿屋驛下車↓當廠(自動車約十分)

(第二十二海軍航空廠)

○赴任轉勤旅費ノ件

内地ヨリ當司令部ヘノ赴任轉勤者ニ對シ門司迄旅費前金拂ヲナス向妙カラザル處今後前金拂ヲナス際ハ臺灣高雄迄支給ノコトニ取計相成度  
(第一海上護衛隊司令部)

○監督官出張所設置

兼二浦出張所 朝鮮黃海道兼二浦邑菱町三三  
日本製鐵株式會社兼二浦製鐵所内

兼南出張所 朝鮮咸鏡南道咸州郡興南邑湖南里三番  
(電話 一三番、一四番)

兼地 日本窒素株式會社俱樂部内  
(電話 二四四七番呼出)

兼嶺海出張所 朝鮮慶尙南道嶺海邑  
(電話 一七九番)

兼嶺海出張所 朝鮮慶尙南道嶺海邑  
(電話 一七九番)

(限 内 部)

# 海軍公報 (部内限) 第四千六百七十四號

昭和十九年四月二十六日(水)  
海軍大臣官房

## ○ 令 達

官房機密第四九一號

海軍戰時特例給與規則中左ノ通改正ス

昭和十九年四月二十四日

海 軍 大 臣

第一條中「南島島」ヲ「千島諸島、小笠原諸島」ニ、  
「フィリッピン、英領マレー」ヲ「フィリッピン、英領マ  
ライ」ニ改ム

第二條第一項第一號中「支那」ノ上ニ「千島諸島、小  
笠原諸島(南島島ヲ除ク)」、ヲ加フ

第九條中「第二條第一項第一號ノ規定ニ該當スル者」  
ヲ「支那又ハ佛領印度支那ニ在ル者」ニ改ム

第九條ノ二中「南島島」ヲ「千島諸島、小笠原諸島」  
ニ改ム

### 附 則

本令ハ昭和十九年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

當分ノ間千島諸島又ハ小笠原諸島(南島島ヲ除ク)ニ  
在ル海軍ノ部隊其ノ他ノ各部ニ勤務スル軍人軍屬ニシ  
テ本令ニ依リ受クベキ増俸ノ額從前ノ規定ニ依ル増  
俸、在勤加俸及僻地在勤手當ノ合計額ヨリ少キトキハ  
從前ノ規定ニ依ル増俸、在勤加俸及僻地在勤手當ノ合  
計額ヲ増俸トシテ支給ス

(參照) 海軍機密會計法規類集一一六頁

官房機密第四九二號

昭和十六年官房機密第一二六三九號外四件中左ノ通改  
正ス

昭和十九年四月二十四日

海 軍 大 臣

第一條 昭和十六年官房機密第一二六三九號第一項第  
一號中「南島島」ヲ「千島諸島、小笠原諸島」ニ改  
メ同第二號中「千島諸島又ハ小笠原諸島(南島島  
ヲ除ク)」ヲ削ル

第二條 昭和十七年官房機密第二五二四號第一項中

海軍公報 (部内限) 第四千六百七十四號

昭和十九年四月二十六日

六〇一

1873

「支那」ノ上ニ「千島諸島、小笠原諸島、」ヲ、同號別表中「支那」ノ上ニ「千島諸島、小笠原諸島(南島ヲ除ク)及」ヲ加ヘ「戦地」ヲ「其ノ他ノ戦地」ニ改ム

第三條 昭和十七年官房第一四四二號第一表中「支那」ノ上ニ「千島諸島、小笠原諸島(南島ヲ除ク)及」ヲ、同號第二表中「南洋群島」ノ上ニ「千島諸島、小笠原諸島、」ヲ、「支那沿岸」ノ上ニ「千島諸島沿岸、小笠原諸島沿岸、」ヲ加フ

第四條 昭和十八年官房經第一九九號第一項中「南島」ヲ「千島諸島、小笠原諸島」ニ改メ同號第二項中「千島諸島又ハ小笠原諸島(南島ヲ除ク)」ヲ削ル

第五條 昭和十八年官房經機密第三八一號第一號中「北海道」ノ下ニ「千島諸島ヲ除ク以下之ニ同ジ」ヲ、第三號(一)中「支那」ノ上ニ「千島諸島、小笠原諸島(南島ヲ除ク)及」ヲ加ヘ同號第二號(二)中「小笠原諸島、」ヲ削ル

附則 本令ハ昭和十九年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

官房經機密第四九三號

海軍戰時特例給與規則中左ノ通改正ス

昭和十九年四月二十四日

海軍大臣

第一表ノイ中

特	各科大尉	五六五〇	一等兵	五二〇
特	各科大尉	五六五〇	一等兵	五二〇
備	一 士官タル大尉ニシテ特務士官タル大尉ヨリ任用セラレタルモノニ給スル増	五六五〇	一等兵	五二〇
考	俸ノ額ハ特務士官タル大尉ノ額ニ依ル			

附則

改ム 本令ハ昭和十九年四月十五日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(参照) 海軍機密會計法規類集一一六頁

### ○ 通 牒

軍務一機密第三六〇號

昭和十九年四月二十二日

海軍省軍務局長

各鎮守府  
各警備府 參謀長殿

災害防止ニ關スル件申進

最近ニ於ケル工作應屢次ノ火災事故ハ眞ニ寒心ニ不堪  
之ガ防止上特ニ留意勵行ヲ要スル事項ニ關シテハ曩ニ  
軍務一機密第四四號ヲ以テ列記此等ノ實行指導方申進  
シ置キタルモ尙其ノ跡ヲ絶タズ本年既ニ

第一海軍航空廠飛行機組立工場等全燒

同 工員寄宿舎一棟全燒

第二海軍航空廠飛行機組立工場一部燒失

第十二海軍航空廠發動機組立工場全燒

等ノ災害ヲ惹起シ之ニ伴フ兵器器材ノ燒失ハ戦力ニ著  
シキ減耗ヲ招來シ居ル實情ニシテ之ガ原因ヲ探求スル  
ニ工員ノ素質不良及現場ニ即スル各級幹部ノ各種取締  
監督ニ缺如スル所アリト認メラレ候ニ就テハ大凡左記

諸點ヲ留意事項ニ追加シ間斷ナキ指導監督ヲ一層強化  
シ特ニ上司ノ意圖ヲ末梢迄徹底セシムルト共ニ此ノ際  
査閲等ヲ實施スルノ措置ヲ講ジ以テ事故發生ノ禍根ヲ  
根絶セシメラルル様可然取計相成度

記

- 一 「ガソリン」其ノ他引火性物件ノ出納、搬出及格納ニ關スル取締強化ノ具體的措置
- 二 工場内存置物件ノ適否、點檢及整理ノ勵行
- 三 工場内ニ格納庫の場所設置ノ禁止
- 四 工員出勤後特ニ一時間内ノ寄宿舎内警戒及巡回ノ勵行
- 五 工員寄宿舎従業員ノミヲ以テスル防火能力ノ向上
- 六 新製又ハ修理完成兵器類ハ完成ノ儘工場内留置ヲ止メ隔在倉庫其ノ他適當ノ格納場所ヲ選定疎開格納ノ勵行

(二月二十二日本欄参照)

海人豫機密第六二號ノ一三

昭和十九年四月二十四日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

海軍公報(部内限)第四千六百七十四號

昭和十九年四月二十六日

六〇三

海軍豫備補習生志願資格ニ關スル件申進

海軍豫備補習生規則第一條ノ三中技術従事者トハ左記ノ職ニ在ルモノヲ指スモノト了知相成度

記

一 戰時海軍工員規則第十六條附表第一中左ノ職ニ在ル者

- 製圖員、分折員、實驗員、検査員、計器員、光學員、
- 記録員、企畫員、飛行員、機工員、仕上員、製鋼員、
- 鑄工員、鍛工員、撓鐵員、銅工員、鐵工員、鋸打員、
- 填隙員、鐵木員、現圖員、穿孔員、熔接員、鍍工員、
- 木工員、木型員、製罐員、組立員、電氣員、火工員、
- 製藥員、塗工員、縫工員、綱具員、練瓦員、潜水員、
- 寫真員、刷版員、兵器員、準備員、運轉員、機關員、
- 運搬員

二 海軍燃料廠及施設系各應工(鑛)員ニシテ前號ニ準ズル技術従事工(鑛)員及築城施設技術従事工員

三 雇員及傭人ニシテ第一號ニ準ズル職ニ在ルモノ

教育第一〇九號

昭和十九年四月二十四日

各鎮守府參謀長殿

海軍省教育局長  
海軍省醫務局長

「ツ」反應陰性者、陽性者分離並ニ保健特別訓練班編成試行ノ件申進

首題ノ件左記ニ依リ實施セシメラレ候條可然取計相成度

記

一 目的

結核性疾患ノ發生ヲ豫防スルト共ニ體力强健ナラザル兵ニ對シテハ教育訓練ヲ漸進的ニ施行シ以テ合理的ニ健兵ヲ育成シ教育ノ效果ヲ發揚セシム

二 實施スベキ海兵團及學校

(イ) 武山海兵團、大竹海兵團、相浦海兵團及舞鶴海兵團

(ロ) 海軍潜水學校及防府海軍通信學校

三 實施範圍

昭和十九年五月及九月入團スハ入校スベキ新兵、練習兵及練習生

但シ武山海兵團ハ練習兵、舞鶴海兵團ハ水兵ノミトス

四 實施要領

- (イ) 入團、入校時「ツ」反應成績ニ依リ「ツ」反應陽性者分隊及「ツ」反應陰性者分隊ヲ編成シ居住區劃ヲ極力別ニス
- (ロ) 「ツ」反應陰性分隊員ニハ所定ニ依リB・C・G接種ヲ施行シ接種後三ヶ月目ニ「ツ」反應検査ヲ實施陰性者ニハ再接種ヲ行フモノトス
- (ハ) 前記新兵練習生中ヨリ身體強健ト認メラレザル者ヲ選定シ左ノ要領ニ依リ特別訓練班ヲ編成シ居住區劃ハ極力別ニスルモノトス
  - (一) 「ツ」反應陰性特別訓練班
    - 「ツ」反應陰性者ニシテ體格劣等發育不充分ニシテ一般新兵練習生等ト同一訓練ヲ施スハ適切ナラズト認メラルル者ヲ以テ編成ス
  - (二) 「ツ」反應陽性者特別訓練班
    - 「ツ」反應陽性者ニシテ體格劣等發育不充分ニシテ一般新兵練習生等ト同一訓練ヲ施スハ適切ナラズト認メラルル者ヲ以テ編成ス
- (ニ) 特別訓練班ノ選定ニ當リテハ望診所見、一般身體検査、體重秤量、赤沈値測定、胸部X線間接撮影成績、運動機能、家族歴、體力手帳、兵籍編入

- (ホ) 前ノ職業及環境等ヲ參考ニスルモノトス
  - (一) 一般分隊ニ比シ漸進的ニ案劃施行シ訓練開始後二ヶ月ニシテ一般分隊ト同等ナル訓練ニ至ラシムル如ク企圖シ體操ヲ活用基礎體力ヲ積極的ニ向上セシム
  - (二) 實施ニ當リテハ努メテ兵ノ體力ニ適應セシムル如クシ指導官ハ自己ノ旺盛ナル體力ヲ基準トシテ行動シ兵ヲ徒ラニ過勞ニ陥ラシメ發病ノ因ヲ與フルガ如キヲ戒メ兵ノ心身ノ狀態特ニ疲勞ノ程度、睡眠狀況等ヲ注意シ教育訓練全般ニ亘リ適切ナル指導ヲ施ス
  - (三) 班員ニハ自己ノ體力ニ自信ヲ持タシメ積極的ニ體力向上ニ努力スル氣風ヲ涵養セシム
    - 所轄長ハ軍醫科士官ヲシテ極力結核性疾患摘發ニ努力セシムルト共ニ教育訓練ノ體力ニ及ホス影響、休養及榮養ノ狀況、環境ノ良否等一般衛生事項並ニ兵ノ健康狀態ニ注意セシメ且常ニ團(校)内生活ノ實狀ニ親炙シ醫學的見地ヨリ特別訓練班ノ體位向上ニ關シ指導官ヲ輔佐セシムルモノトス

海軍公報(部内限) 第四千六百七十四號

昭和十九年四月二十六日

六〇五

五 報 告

關係所轄長ハ每期及終末期ノ成果概要竝ニ所見ヲ所屬長官ニ報告スルト共ニ右寫一通ヲ海軍省教育局長及海軍省醫務局長ニ送附スルモノトス

○ 辭 令

○昭和十九年三月二十九日

平野寅之助

任海軍技手  
給二級俸

海軍技手 平野寅之助

吳海軍工廠勤務ヲ命ス(三十九年海軍省)

海軍艦政本部附海軍書記 長濱 利男

海軍電波本部附ヲ命ス

明石工作部附海軍技手 水町 虎作

佐世保海軍工廠勤務ヲ命ス

同 上柏 利治

吳海軍工廠勤務ヲ命ス(三十九年同)

同 金子 武司

横須賀海軍工廠勤務ヲ命ス

同

吳海軍工廠勤務ヲ命ス(以上三十九年同)

升田 三市

海軍主計大尉 原田 隆二郎

ガアム民政部分任出納官吏ヲ免シ第五海軍建設部ガアム支部ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス(三十九年同) 海軍省經理局長)

海軍主計中尉 吉田 一宜

第八號海防艦ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス(三十九年同)

同 佐治 大

第一〇二號哨戒艇ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(三十九年同)

同 小川 一郎

第七號海防艦ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス

同 堀口 佐一

右同分任出納官吏ヲ免ス(三十九年同)

○ 雜 款

○感狀授與通知  
昭和十七年十月二十六日及昭和十七年十一月十二日軍  
艦比叡勤務者ニ對シ左記ノ通履歴ニ記註相成度

記

年月日	記	事	備考
十七 九十五	加シ部隊感狀ヲ授與セララル	ソロモン方面作戰ニ參 加シ部隊感狀ヲ授與セララル (聯合艦隊)	昭和十七年十 月二十六日參 加シタルモノ
十七 九十五	部隊感狀ヲ授與セララル	沖作戦ニ參加シ セララル (聯合艦隊)	昭和十七年十 一月十二日參 加シタルモノ

○轉勤者赴任ニ關スル件

當隊ヘノ轉勤者ニテ姫路驛下車ノ向有之候處當隊姫路  
間約十七軒アリ且適當ナル交通便ナキニ付必ズ左ニ依  
ラレ度

山陽線加古川驛下車—加古川線ニ乗換—栗生驛下車  
—北條支線ニ乗換—法華口驛下車

(姫路海軍航空隊)

○郵便物宛先ノ件

當隊ハ鹿屋海軍航空隊ト同一市ニ在リ郵便物並ニ送付  
物件同隊ト混同シ易キニ付當隊宛發送ノ分ハ必ず第二  
鹿屋海軍航空隊ト明記相成度

(第二鹿屋海軍航空隊)

○事務所撤去

第三十三警備隊設立事務所ハ四月二十日之ヲ撤去セリ  
追テ郵便物ハ吳郵便局氣付テ四參テ參八宛(入祕移  
牒事項ハ急送扱)送付相成度

○取消

四月一日附海軍(公報)部内限號外辭令欄三二頁上段  
二行目「田村保次郎」同三五頁上段二行目「笠間重滿」  
同三五頁上段八行目「新田目直壽」同三五頁上段十六  
行目「加藤源治」同三五頁上段二十行目「小杉 速」  
四月五日附海軍公報(部内限)辭令欄四六四頁下段十  
三行目「小松正光」ハ孰モ取消

○正誤

四月一日附海軍公報(部内限)號外辭令欄二八頁上段  
十三行目「第八海軍施設部囑託」ハ「第八海軍建設部  
囑託」ノ、同三三頁上段四行目「本田親善」ハ「本田  
親善」ノ、四月十日附海軍公報(部内限)辭令欄五〇  
七頁上段二一〇行目「海軍技術研究所業務」ハ「海軍  
技術研究所研究業務」ノ、同五〇八頁上段八行目「海  
南海軍特務部業務」ハ「海南海軍施設部業務」ノ、四  
月十九日附海軍公報(部内限)五六五頁上欄三人目「今  
村勝光」ノ官名「海軍錄事」ハ「海軍書記」ノ、四月



海軍公報(部内限) 第四千六百七十四號

昭和十九年四月二十六日

六〇八

二十二日附海軍公報(部内限) 五八七頁上段令達欄官  
房人機密第一〇二二號ノ發布月日「昭和十九年四月二  
十一日」ハ「昭和十九年四月十五日」ノ孰モ誤

1880

(別紙)

表紙

15欄  
折目

備考  
十枚綴

10.5欄

**注 意 事 項**

1. 本通知票の女子勤務員ヲ退廳時刻三十分以後居残セシメタル場合又ハ其ノ時刻以前ニ早退セシメタル場合其ノ退廳時刻ヲ記入シ取締責任者捺印ノ上本人ヲシテ保護者ニ提示セシムルモノトス
2. 女子勤務員本通知票ニ退廳時刻ノ記入ヲ受ケタル時ハ帰宅後直チニ保護者ノ捺印ヲ受クルモノトス

**女子勤務員家庭通知票**

廳 名

所屬部局課名	
氏 名	
現住所	
通勤所要時間	
保護者氏名	

月 日	退廳時間	部局員印	保護者印	記 事 欄

内 部

(昭和十九年四月七日海軍公報(部内限))

折目

1881

(各通) 第二日新丸船長 横木 政榮

囑託ヲ解ク(昭和十九年三月二十五日同)

(各通) 千光丸機關長 岩 上 茂

囑託ヲ解ク(昭和十九年三月二十五日同)

桂川丸船長 米田 謹次郎

(各通) 會幸丸機關長 佐々木 定藏

囑託ヲ解ク(昭和十九年二月七日附)

會幸丸一等運轉士 森田 六一

囑託ヲ解ク(昭和十九年三月二十五日同)

常島丸船長 松浦 倉之進

羽黒丸 船長 井原長右衛門

(各通) 同 一等運轉士 出水 秀巳

同 二等運轉士 二宗 義男

同 機關長 利光 憲士

同 一等機關士 松尾 英男

囑託ヲ解ク(昭和十九年三月二十五日同)

同 主任無線通信士 荒木 稔

(各通) 山國丸 船長 岩 塚 貞

同 一等運轉士 緒方 卓

囑託ヲ解ク(昭和十九年三月二十五日同)

同 無線局長 平野 敬造

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

海軍大臣官房

昭和十九年四月二十六日(水)

○郵便物發送先通知 (宛先ハ下段ノ通記載ノコト)

○艦船ノ部

一 星光丸

一 測天

一 嚴島、國山丸、第十八眞盛丸、東祐丸

一 第三播州丸

一 第三回航班

一 第五回航班

○陸上ノ部

一 第三四三航空隊

一 第十八魚雷調整班

一 第十九 同

一 第二十一 同

一 第三十三防空隊

一 第五十三警備隊松輪派遣隊

横須賀局氣付 星光丸

同 「ウ壹壹ウ四八」經由 測天

吳局氣付 嚴島、國山丸、第十八眞盛丸、東祐丸

佐世保氣付 第三播州丸

吳鎮 艦船部隊殘務整理班氣付 「七七參」

佐鎮 同 「七七五」

横須賀局氣付 「ウ貳壹ウ參貳六」

同 「ウ五〇ウ參七九」

同 「ウ貳壹ウ參八〇」

同 「ウ參〇ウ參八貳」

吳局氣付 「セ貳壹セ九參」

大湊局氣付 「ウ壹〇八ウ參六七ウ貳貳貳」

海軍公報 (部内限) 號外

五九

1883

<p>第四十一航空基地隊松輪派遣隊 大湊施設部松輪出張所 第五氣象隊松輪觀測所 第二十二魚雷調整班 第二十 同 第十九設營隊 第一百十一 同</p>	<p>大湊局氣付「ウ壹〇八ウ貳八七ウ貳貳貳」 同 「ウ壹〇八ウ參〇ウ參壹」 同 「ウ壹〇八ウ壹四四ウ六四」 同 「ウ壹參〇ウ參八參」 千歲航空基地氣付「ウ參八壹」 吳鎮艦船部隊殘務整理班氣付「ウ貳〇壹」 同 「ウ壹九壹」</p>
<p>司令宛 主計長宛 隊、機關長、軍醫長宛 (第十驅逐隊) 風雲 朝雲 秋雲</p>	

1884

(限 内 部)

# 海軍公報 (部内限) 第四千六百七十五號

昭和十九年四月二十七日(木)  
海軍大臣官房

## ○令 達

官房人機密第九六〇號

本年四月十五日現在水路部職員ニシテ海軍氣象部職員兼務ノ者ハ特ニ發令セララルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ海軍氣象部ノ各相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和十九年四月十五日

海軍大臣

官房備第六四號

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

新設海軍軍用郵便所ノ事務開始期日ハ追テ之ヲ定ム

昭和十九年四月二十一日

海軍大臣

表中第十五海軍軍用郵便所ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第十六海軍軍用郵便所	第三十根據地隊	横須賀鎮守府	中部太平洋方面艦隊	監督官	兼務 一人
				所長	專任 一人 奏任
				所員	專任 十四人 判任 十三人 雇員

(参照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ(内令提要卷一、六四ノ九頁)

海軍公報(部内限) 第四千六百七十五號 昭和十九年四月二十七日

六〇九

1885

○通牒

官房機密第一九四號

昭和十九年四月二十六日

海軍省副官

關係各廳長殿

横須賀海軍砲術學校分校呼稱ニ關スル件  
通牒

本年四月十五日以降横須賀海軍砲術學校ノ海軍豫備生徒及同關係職員ハ横須賀市長井町ニ新設ノ校舍ニ移轉ニ付同校舍ヲ當分ノ間部内限リ横須賀海軍砲術學校長井分校ト呼稱スルコトニ定メラレ候

海人第一七〇號

昭和十九年四月二十六日

海軍省人事局長  
海軍省經理局長

關係各廳長殿

戰歿者及戰傷病者等ニ對スル恩給、  
賜金等處理方ニ關スル件申進  
戰歿者及戰傷病者等ニ對スル恩給、賜金等ノ手續ニ關

シテ各其ノ規定ニ依リ事後直ニ處理セラルベキ處往々適切ナル處理ヲ缺キ之ガ爲事後年餘ヲ經過スルモ尙遺族又ハ傷痍軍人ニ對スル恩給、賜金等事後ノ給與ヲ爲シ得ザルモノアリ關係所轄ニ於ケル戰務繁劇ノ爲之等ノ事務處理ガ遅レ勝テト爲ルベキ事情ハ之ヲ諒トスルモ軍人援護ノ根幹タル恩給、賜金等ノ交付ガ部内ニ於ケル處理適切ナラザル爲遲滞スル如キコトアルハ一般ニ軍人援護ノ強調セラレアル現狀ニ鑑ミ洵ニ遺憾トスル所ニシテ部外一般ニ及ボス影響尠カラザル次第モアリ關係所轄長ニ於テハ事後直ニ適確ニ之ガ處理ヲ完了セラルル様取計相成度

(參考表第一及第二添)

○辭令

貳千四百貳拾圓	林 如 松
貳千貳百參拾圓	陳 進 東
貳千百拾圓	劉 肇 芳
千八百貳拾圓	田 川 義 正
千六百五拾圓	林 永 助
(各逆) 千六百五拾圓	吳 招 唐

千六百五拾圓	陳南洲	千六百五拾圓	增田辰三郎
千六百五拾圓	許生濱	第五海軍建設部業務ヲ囑託ス	
千四百七拾圓	黄千勳	但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(三三三同)	
第八海軍建設部醫療業務ヲ囑託ス		厚生省研究所研究官 岡崎文規	
但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(二二四海軍省)		マカツサル研究所業務ヲ囑託ス(三三三同)	藤田正武
第二十五海軍建設部囑託		軍令部事務ヲ囑託ス	
自今報酬年額千四百圓ヲ給ス(三三三同)	武田久勝	但シ報酬年額千四百七拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(三三三同)	神野貞重
和田太郎		松山海軍航空隊教授ヲ囑託ス	
海軍技術研究所醫療業務ヲ囑託ス		但シ報酬年額千六百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス	
但シ報酬年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(二五五同)	林進士	特設海軍燃料廠補給部業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上一四四同)	岡村重治朗
四千五拾圓	平林保	マカツサル研究所醫療業務ヲ囑託ス	
貳千拾圓	下山野傳次郎	但シ報酬年額貳千六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(四四四同)	
千八百貳拾圓	石垣豐三郎		
千八百貳拾圓	茂木修策		
(各通)	大塚校		
千六百五拾圓	村山文市		
千六百五拾圓	松村匡一		
千四百七拾圓			

海軍公報(部内限)第四千六百七十五號 昭和十九年四月二十七日

六一二

1887



通信書記補 長田 宏  
上海海軍特別陸戰隊附ヲ免シ東京海軍通信隊附ヲ命  
ス

通信書記 高吉 等  
同 稻垣 親  
同 五島 正徳  
同 田中 鏗三  
(各通)

通信書記補 安藤 信雄  
第二十六海軍建設部附ヲ免シ上海海軍特別陸戰隊附  
ヲ命ス

吳海軍施設部徵用員 橋 善雄  
同 長原 玄  
(各通)

大阪海軍施設部ニ配屬ス  
第二十四設營隊徵用員 浦濱 武・雄  
佐世保海軍施設部ニ配屬ス

寶來 邦太郎  
水路部ニ於ケル水路圖誌編纂事務囑託ヲ解キ海軍氣  
象部事務ヲ囑託ス(報酬 如故)(以上 同)

豊竹 鐵  
横須賀海軍工廠工員寄宿舎業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額九百六拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇  
トス

高見澤 幸助  
海軍大臣官房事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

若菜 秋三  
横須賀海軍病院業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

時田 忠夫  
軍令部ニ於ケル事務囑託ヲ解キ第一南遣艦隊事務ヲ  
囑託ス(報酬 如故)

山崎 長年  
第二海軍燃料廠ニ於ケル事務囑託ヲ解キ第六海軍燃  
料廠業務ヲ囑託ス(報酬 如故)

小倉 豊二郎  
台湾總督府天燃  
瓦斯研究所技師  
高雄警備府業務ヲ囑託ス

北島 織衛  
海軍航空本部教育部業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇  
トス

西原 實  
吉田 清盛  
(各通)

谷口 正志  
海軍艦政本部業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

四百圓 (各通) 參百圓	三卷 一郎 大貫 信之 更田 正彦
海軍艦政本部業務ヲ囑託ス 但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス	萩原 庸三
海軍艦政本部業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス	小林 織之助
軍令部編纂事務ヲ囑託ス 但シ報酬年額千四百七拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス	金子 浩次 本多 重雄
(各通) 千參百圓	海軍艦政本部造船業務ヲ囑託ス 但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス
海軍航空技術廠研究業務囑託	佐々木 申二
自今報酬年額參千圓ヲ贈與ス	西村 真一郎
佐世保海軍運輸部事務ヲ囑託ス	
但シ報酬年額千百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス	羽生 三樹
霞ヶ浦海軍病院業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス	奥平 定世
海南海軍特務部業務ヲ囑託ス 但シ報酬年額貳千六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス	福岡 金次郎
第四艦隊事務ヲ囑託ス 但シ報酬年額千五百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス	加藤 英明 後藤 元治
(各通)	横須賀海軍病院業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス
軍需技師兼軍需省軍需官 軍需技師兼軍需省軍需監理官	野尻 茂治 伊丹 治雄
(各通)	軍需技師 中岡 保
横須賀鎮守府業務ヲ囑託ス	

海軍公報(部内限) 第四千六百七十五號

昭和十九年四月二十七日

六一三

1889

(各通)

鶴見 志津夫  
 中村 宏  
 村松 勝  
 寺本 榮藏  
 神部 義雄  
 加藤 誠二  
 第一南遣艦隊業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス  
 杉 政人  
 海軍艦政本部事務ヲ囑託シ部内限勅任官待遇トス  
 横内 由雄  
 鎮海海軍施設部醫療業務ヲ囑託ス  
 但シ報酬年額千六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス  
 松尾 一郎  
 佐世保海軍工廠海軍共濟組合醫療業務ヲ囑託ス  
 但シ報酬年額千四百七拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス  
 中野 太郎  
 海南海軍特務部業務ヲ囑託シ部内限勅任官待遇トス  
 馬瀨 淳吉  
 豊川海軍工廠總務部業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

豊川海軍工廠海軍共濟組合業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス  
 青山 安五郎

海軍施設本部業務ヲ囑託ス(以上同)  
 林業試験場技師 高橋 憲三

○雜款

○感狀授與通知  
 自昭和十七年十一月九日 至同 年十一月十八日 期間本艦乗員ニ對シ昨年九月十五日聯合艦隊司令長官ヨリ感狀授與セラレ候條該當者ニ就キ左記ノ通履歴ニ記註相成度

年月日	記	事
昭和十八年九月十五日	昭和十七年十一月中旬前進部隊挺身攻撃隊トシテ第三次「ソロモン」海戦ニ參加シタル功績ニ對シ聯合艦隊司令長官ヨリ部隊感狀ヲ授與セラル	(第六驅逐隊(雷、電))

○速達料金ニ關スル件  
當隊所在地左記ノ通ニ付當隊宛速達郵便物ニシテ特別  
地域料金貼付無之爲不足料金相當金額ニ達スル現狀ニ  
有之候條自今當隊宛速達郵便物ハ特別地域料金貼付相  
成度

記

神奈川県高座郡大和町

厚木海軍航空基地内

(第一〇八一海軍航空隊)

○閉隊

岡崎海軍航空隊ハ四月一日閉隊セラレ同隊ニ派遣隊  
(舊河和空岡崎分遣隊)ヲ設置セリ

○事務開始

第百〇四航空基地隊ハ四月一日吳海兵團内ニ於テ事務  
ヲ開始セリ

○残務整理

第二〇四海軍航空隊残務整理ハ四月一日木更津航空基  
地ニ於テ之ヲ行フ

○事務所撤去

吳海兵團内落合部隊事務所ハ四月二十日之ヲ撤去セリ  
伊號第五十五潜水艦艇裝員事務所ハ四月二十日之ヲ撤

去セリ

○正誤

四月二十六日附海軍公報(部内限)雜款欄六〇七頁上  
段感狀授與通知ノ末尾ニ「(横須賀鎮守府艦船部隊)」  
ヲ加フ

海軍公報(部内限)第四千六百七十五號

昭和十九年四月二十七日

六一五

1891

# 海軍公報

(部内限) 第四千六百七十六號

昭和十九年四月二十八日(金)

海軍大臣官房

## ○令達

官房設機密第九四四號

當分ノ間特設設營隊ノ物品及豫算ノ整理ニ關シテハ左ノ各號ニ依ルベシ

昭和十九年四月二十六日

海軍大臣

一 特設設營隊ニ要スル營繕費支辯機械其ノ他ノ物品(以下設管用物品ト稱ス)ハ別ニ定ムル擔任區分ニ依リ補給擔任廳ノ通常物品會計官吏又ハ取扱主任(以下擔任會計官吏又ハ擔任取扱主任ト稱ス)之ヲ供給ス但シ初度裝備ノモノハ所管鎮守府所屬ノ施設部ノ通常物品會計官吏(以下初度裝備會計官吏ト稱ス)之ヲ供給ス

二 初度裝備會計官吏ハ特設設營隊附タル主計科士官ヲ取扱主任(以下單ニ取扱主任ト稱ス)トシ機械ニ在リテハ供用トシ其ノ他ノ物品ニ在リテハ消耗拂ト

シテ供給スルモノトス

三 會計官吏自己ノ初度裝備擔任ニ屬セザル特設設營隊ニ設管用物品ヲ供給シタルトキハ機械ニ在リテハ當該初度裝備會計官吏ニ保管轉換シ其ノ他ノ物品ニ在リテハ消耗拂トシテ整理スルモノトス

四 前各號ニ依リ特設設營隊ニ設管用物品ヲ供給シタル會計官吏ノ屬スル各廳長ハ設營資材訓令豫算配付ノ資料トシテ毎月書式第一ノ設管用物品供給調書ヲ海軍施設本部總務部長ニ送付スルモノトス

五 擔任取扱主任其ノ保管ニ係ル設管用機械ヲ特設設營隊ニ供給シタルトキハ取扱主任ノ領收票ヲ添へ擔任會計官吏ニ還納ノ手續ヲ爲スモノトス

六 特設設營隊ニ於テ設管用物品ヲ購買シタルトキハ取扱主任ハ毎月書式第二ノ購買物品調書三通ヲ調製シ其ノ二通(一通ハ納票ニ一通ハ領收票ニ代用ス)ヲ初度裝備會計官吏ニ、其ノ一通ヲ海軍施設本部ニ送付スルモノトス

(限 内 部)

海軍公報(部内限) 第四千六百七十六號

昭和十九年四月二十八日

六一七

1892

機械以外ノ前項物品ニ付テハ初度裝備會計官吏ハ原簿登記ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

七 取扱主任其ノ取扱ニ係ル物品ニシテ不用ニ屬スルモノアルトキハ之ヲ最寄ノ會計官吏ニ還納又ハ最寄ノ取扱主任ニ現品ヲ引繼ノ上當該會計官吏ニ還納ノ手續ヲ爲スコトヲ得

前項物品中機械ニ付テハ還納ヲ受ケタル會計官吏ハ初度裝備會計官吏ヨリ保管轉換受ノ手續ヲ爲スモノトス

八 取扱主任ハ適宜ノ帳簿ヲ備ヘ物品ノ受拂ヲ登記スルモノトス

九 特設設營隊資金前渡官吏ハ毎月末日現在書式第三ノ臨時軍事費營繕費支拂通報ヲ調製シ海軍施設本部總務部長ニ送付スルモノトス

附則

昭和十六年十二月五日官房機密第一一四三七號ハ之ヲ廢止ス

(書式三葉添)

○ 辭 令

○昭和十九年四月二十四日

(各通)

任海軍教員  
給一級俸

(各通)

任海軍教員  
給二級俸

(各通)

任海軍教員  
給三級俸

(各通)

神藤 八郎  
收井 正雄

加藤 末藏  
龜山 秋作

多田 三千男  
瀬戸 茂

松井 茂  
松村 英吉

赤坂 四郎  
草川 正美

山崎 正己  
新 縫之助

鍋島 直一  
野畑 太郎

1893

任海軍教員 給四級俸		谷岡 主計
セレベス民政部附ヲ命ス	海軍教員	神藤 八郎
ボルネオ民政部附ヲ命ス	同	牧井 正雄
セレベス民政部附ヲ命ス	同	加藤 末藏
ボルネオ民政部附ヲ命ス	同	亀山 秋作
(各通)	同	多田 三千男
セレベス民政部附ヲ命ス	同	瀬戸 茂
(各通)	同	松井 茂
小スンダ民政部附ヲ命ス	同	松村 英吉
ボルネオ民政部附ヲ命ス	同	赤坂 四郎
小スンダ民政部附ヲ命ス	同	草川 正美
南西方面海軍民政政府附ヲ命ス	同	山崎 正巳
小スンダ民政部附ヲ命ス	同	新 縫之助
(各通)	同	鍋島 直一
セレベス民政部附ヲ命ス	同	野畑 太郎
ボルネオ民政部附ヲ命ス(以上 <sup>同</sup> 海軍省)	同	谷岡 主計
第八海軍經理部附海軍書記	同	木村 行政
横須賀海軍施設部附兼横須賀海軍經理部附ヲ命ス	水路部附海軍技手	伊藤 隆樹
海軍氣象部附ヲ命ス	第四海軍施設部附海軍技手	長谷川 忠三
(各通)	同	野口 敬三
同	同	佐藤 勝三郎
同	同	伊藤 福太郎
同	同	木村 幸雄
同	同	小林 竹次郎
同	同	石井 八郎
同	同	小保内 武勝
横須賀海軍施設部勤務ヲ命ス	同	梅田 齋脩
黄流海軍航空隊附海軍書記	同	
鹿屋海軍航空隊附ヲ命ス	同	

海軍公報(部内限) 第四千六百七十六號 昭和十九年四月二十八日

六一九

1894

第八海軍建設部附海軍書記 小岳 敬道  
南西方面海軍民政府附ヲ命ス(以上三ノ五ノ同)

勳七等 井田 尊一郎  
海軍省兵備局ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(三ノ四ノ海軍省兵備局)

海軍屬 荻原 恒太郎  
第三課附ヲ命ス(三ノ四ノ同)

海軍主計大尉 鳩山 威一郎  
第四海軍經理部バラオ支部國防獻金恤兵金學藝技術獎勵金分任出納官吏ヲ命ス(三ノ四ノ海軍省經理局長)

(各通)  
福本 榮次郎  
早川 辰治  
新井仁左衛門  
栗山 平吉  
星谷 辰男

海軍省醫務局醫療業務ヲ囑託ス(三ノ四ノ海軍省醫務局)

○ 雜 款

○ 試驗問題發送

普通科特技章附第三回銓衡試驗問題

右四月十八日左記ノ通發送濟、未着又ハ別ニ必要ノ向

ハ至急通知相成度

一 單獨試驗施行豫定ノ各部ニハ直送

二 聯合試驗用ノモノハ佐世保海軍人事部部員、鎮海警備府參謀長、高雄警備府參謀長宛直送  
(海軍工作學校)

○ 事務開始

藤澤海軍航空隊(假稱)設立準備委員事務所ハ四月二十一日神奈川縣藤澤市藤澤四二三八(舊「ゴルフ」場事務所)ニ於テ事務ヲ開始セリ

○ 事務所撤去

海軍施設本部補給部内第一臨時設營班殘務整理事務所ハ四月二十三日之ヲ撤去セリ

○ 正誤

四月二十七日附海軍公報(部内限)通牒欄六一〇頁上段「官房機密第一九四號」ハ「官房教機密第一九四號」ノ誤

○ 本日普通公報發行セズ



書式第一

昭和 年 月 日

(昭和十九年四月二十八日海軍公報(部内限))

海軍施設本部總務部長殿

何々海軍施設部長

印

昭和 年 月 分設備用物品供給調書

品名	數量	單價	代價	供給先	記事
合計					

備考

一 供給先別ニ小計ノコト

1896

書式第二

昭和 年 月 日

(昭和十九年四月二十八日海軍公報(部内限))

何々海軍施設部通常物品會計官吏殿

昭和 年 月分購買物品調書

何々設營隊物品取扱主任

官 氏

名

印

品名	呼稱	數量	單價	代價	檢收年月日	納入者
合計						

備考

- 一 機械ト其ノ他ノ物品ハ各別紙ニ調製スルコト
- 二 本調書ハ特設設營隊長ノ檢印ヲ受クルコト

1897

